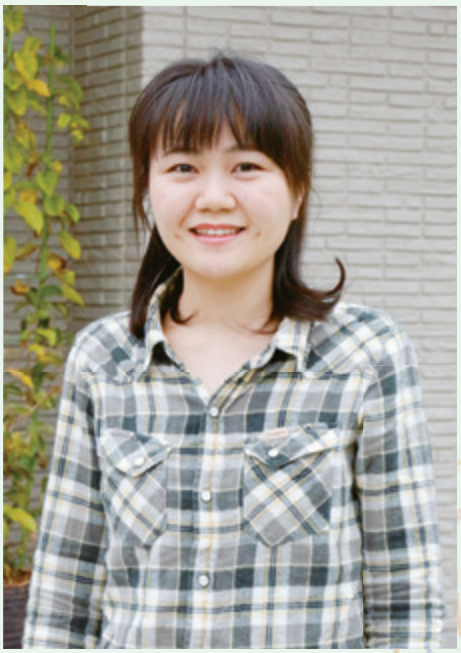
広報いいたて 平成29年11月号 No.645（毎月5日発行）
●発行 飯舘村 ●編集 総務課広報委員会 飯舘村役場 〒960-1892 福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢580番地1 電話：0244-42-1611（代表） FAX:0244-42-1601

HOPES
ホープス セカンド
2nd

大好きな家族が私のふるさと

鳥羽 あゆみ さん（佐須／旧姓 菅野）



震災時は相馬看護専門学校の１年生。避難するまで佐須の自宅から通学していました。平成 25 年に地元の病院に就職。被災地の医療を支えました。

震災の日、看護専門学校の1年生だったあゆみさんは、南相馬市立病院で実習中でした。激しい揺れの中、病室のロッカーを抑えて患者を守り、津波の危機が迫る中、病院内の移動を補助。しかしその後、学生たちは、帰宅を命じられます。「まだ資格がない立場。役に立てないことが悔しかった」。

高校時代の骨折をきっかけに看護の仕事に興味を持ち、地域医療に貢献したいと看護学校に進学。「自立できる資格を」という両親の勧めも背中を押しました。「家族が大好きな私は、経験を積んで、いずれ村のクリニックで働くのもいいなあと思っていました」。あゆみさんは、3姉妹の真ん中。「一つの食べ物も皆で分かち合うような仲の良い家族です」。

看護学校時代のあゆみさん（前列右から２番目）。震災時も支え合った仲間と共に看護帽を頭上に戴く「戴帽式」に臨んだ日のひとこま。

全村避難となり、一次避難を経て家族は福島市内の仮設住宅へ。あゆみさんは相馬市内のアパートに移りました。同時に相馬市内の施設に入居した祖母を見守るのもあゆみさんの大事な役目になりました。そして平成25年、看護師となり、公立相馬総合病院に就職。地域医療に携わりたいという志を実現しました。

働き始めて3年目。あゆみさんは職場の同僚と意気投合し、交際期間を経て今年9月に結婚。ご主人の転勤に合わせて会津若松市へ転居し、11月から現地の看護師として、新たな一歩を踏み出します。

〈編集後記〉

●朝晩、気温がグッと下がり、暗くなる時間も早くなってきました。この季節は体調を崩しやすいちょっと厄介な季節ではありますが、山が燃えるような紅葉のシーズンでもあります。大勢の観光客が来るような観光地も良いですが、個人的には、自分だけの秘密の場所を知っている大人に憧れます。なので、村民の方が内緒にしている絶景スポットを教えていただければ幸いです。最後に、取材をして思った、これだけは大声で言わせていただきたい。村には、黄金の稲穂が本当によく似合う！（木幡）

●「いいたてっ子発表会」は、劇、群読、和太鼓、合奏、身体表現、体操など…どれも非常に見応えがあり、発表にこめたテーマを伝えよう、伝えたいという児童の皆さんの思いが、キラキラとあふれていました。「この仮設校舎から未来に向かって進んでいきます」と最後に語った6年生。やり遂げた一人ひとりの誇らしい表情が印象的でした。感動をありがとう。（星）

the most beautiful villages in japan

飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。